[別紙２]

審査の結果の要旨

氏名　　小渡　康行

本研究は、人間の社会的活動に不可欠である相貌認知に関連して、肖像は左向き斜め顔で表現される頻度が有意に高いという事実を動機として、左斜め向き顔と右斜め向き顔にたいする人間の相貌認知活動に違いがあるかを、心理学的および神経学的に調べたものであり、下記の結果を得ている。

１．名前と顔の一致を答えさせる matching 課題において、左向き顔のほうが右向き顔よりも正解を得るまでの反応時間が有意に短かった。

２．fMRI を用いて、左斜め向き顔と右斜め向き顔をみたときの神経活動の違いを調べたところ、右前頭前野、右下頭頂葉において、左斜め向き顔を見たときに右斜め向き顔よりも有意に脳血流が大きく上昇することが見出された。この 2 つの領域は、これまでの研究において、顔の記憶の想起に重要な働きをしていることが報告されている。それに対し、右顔を見たときに左顔よりも有意に血流が大きく上昇する脳領域はなかった。

以上、本論文は左斜め向き顔の相貌認知における右斜め向き顔に対する優位性を、心理学的、神経学的に明らかにした。本研究は、これまで仮説の域にとどまっていた、肖像に左顔が多いということの理由について、初めて客観的な理由となりうる心理的事象および相関する脳活動を発見したものであり、学位の授与に値するものと考えられる。